

## 夢とメディアの関係

学籍番号 10100000

氏名 甲南花代

## 1 問題意識・調査目的

・どのようにして人は、「夢」を見つけるのだろうか。

私は、「夢」を持つことをすばらしいことだと思っている。しかし、「夢」は生まれた瞬間から持っているのではなく、数年へてメディアの影響を受けて形成されていくものだと思う。なぜなら、子どもが成長するにつれてメディアと接する機会が増えていく。そのために、幼少のときに身近なものに夢を抱くのと同じように、媒体を通して目の中に入ってくるものに夢を抱くようになる。子どもの夢とメディアには、深いつながりがあると思うので、このことについて重点的に注目して研究したい。

## 2 作業仮説

小学校低学年のときには、アニメのキャラクターに憧れたり近所のお店屋さんに興味を持ったりなどの空想的な面で夢を持つが、小学校の高学年から中学年にもなるとドラマやニュースなどのメディアから得た情報を自分なりに解釈していき、より自分に合った夢を見つけるようになる。高校生から大学生にもなると、メディアをうまく活用し、自分の夢を現実にするためのスタートラインに着く。

夢はメディアからたくさんの影響を受けているのではないかと思う。

## 3 調査対象・調査方法・調査期日

・甲南大学1回生を対象に調査を行った。その中で無作為に選んだ一人に調査をお願いした。その学生は、兵庫県出身の女性(Aさん)である。

・面接法による調査を行った。実施時間は約15分である。

・5月14日(木)の4・5限目の社会学・人類学実習の時間に行った。

## 4 既存のデータや理論

物体と空間を合わせた外界世界の見え方を仮に「視的環境性」と呼ぶことにしたい。視的環境性は子供の時からその人を取り巻いているから、知らず知らずのうちに見ることにに対して何らかの影響を与える成分となっている。つまり、視的環境性は見え方の枠組みを作るように働きかけているのだ。見え方の枠組みとしては、視的環境のほか、その人の属する社会が持つ文化も強い要因となって働く。我々は、これら二つを主要因とする枠組みの中で外界を見ているの

である。自分では自由好き勝手にあるいは自分という存在だけを通して見ているつもりであっても、そこにはある枠組みの制約がすでに働いているのである。それはちょうど、お釈迦様の手のひらの中で筋斗雲を飛ばしている孫悟空の状態に似ているといえるだろう。それによって目に映る外界像がどのようなものであれ、見えてくるものはそれぞれの視的環境を持つことによって異なる可能性が生じるのである。

## 5 チェックリスト

- (1) 子供の頃は何になりたかったか。
- (2) 雑誌は1ヶ月で何冊買ったか。
- (3) 新聞はどの面を見ていたか。
- (4) テレビの時間は何時間か。
- (5) テレビでよく見るジャンルは何か

## 6 調査結果

### 将来の夢とメディアの関係

	将来の夢	雑誌 の数 (冊)	新聞 よく見る面	テレビの 時間 (時間/1 日)	テレビの内容 部門別
幼稚園生	覚えていない	0	見ない	0.5	アニメ
小学生(低学年)	小学校の先生	0	見ない	1	アニメ
小学生(高学年)	アナウンサー	0	テレビ欄	2	アニメ・ドラマ
中学生	公務員	3	テレビ欄・天気	2	ドラマ・音楽
高校生	国家公務員の妻	2	1面・政治・テレビ欄	1	ドラマ・音楽・バラエティー
大学生	地方公務員の妻	2	1面・テレビ欄	2	ドラマ・音楽

## 7 考察

今回の調査で、私の仮説がほぼ合っていたように思う。しかし、成長するにつれてあまりテレビの時間が増えていないことには驚いた。また、小学校高学年でアナウンサー、中学生になると公務員といういきなり現実的になっていることには、この当時インタビューに答えてくれた A さんにどのような社会変化があったのかを聞かなかったことには悔いが残った。

## 8 まとめ

今回の調査はあまり下準備もせずにインタビューを行ったこともあり、聞き漏らしや無駄な時間がかかった。自分自身、反省点ばかりで悔いの残る研究になってしまった。それと同時に、一人しかインタビューを行っていないため、確かな研究結果も出せていない。次回は今回の反省点を一つでも無くし、より良い研究をしたい。

## 9 参考文献

小町谷朝生、『視覚の文化』、勁草書房、1990